北海道中富良野町における入札契約改善推進事業について

中富良野町 総務課 財政管財係　齋藤（さいとう）　一也（かずや）

1. はじめに

中富良野町は北海道のほぼ中央に位置し，人口4,623人（令和5年7月31日現在），面積108.65 km² で富良野盆地の自然と景観に恵まれた町である。農業を中心に発展し，「ラベンダーのまち」といわれるほど，ラベンダー畑をはじめとする美しい自然景観を楽しみに年間約110万人が訪れる（図－1）。

中富良野小学校・中学校の概要は次のとおりであり，共に建築から40年以上が経過している。

中富良野小学校・中学校改築事業は，老朽化した現状の校舎を改善するため，両校の施設を一体化させる計画である。

本事業については，数十年に一度の大規模事業であり，事業に対する高い透明性や公平性を確保する必要がある。しかし，技術職員の不足や大規模事業へのノウハウ不足等の要因により，適切な入札契約制度の検討に苦慮していた。そこで国土交通省の入札契約改善推進事業による支援を受けることとした。

【中富良野小学校】（写真－1）

昭和52年・53年建築　RC造　3,580 m²

【中富良野中学校】（写真－2）

昭和55年建築　RC造　4,807 m²

図－1　中富良野町位置

写真－1　中富良野小学校

写真－2　中富良野中学校

2. 現状の入札契約について

本町においては，一般競争入札を導入して以降，公共施設の維持管理に係る工事の発注がメインとなり，多様な入札契約方式に該当する事案は発生していない状況である。

また，技術職員及び入札契約担当職員の人員が足りず，多様な入札契約方式の導入についてノウハウが不足していることから，検討に当たっては非常にハードルの高い難題であると感じていた。

そのような状況の中，数十年に一度の大規模事業を控えるに当たって，本町の入札契約方式を全般的に見直す必要があった。

3. 多様な入札契約方式の検討

入札契約方式を見直すに当たっては，実施設計業務を既に発注済みであり，実施設計に基づき仕様を確定の上，工事を発注することから，「総合評価落札方式」または「価格競争方式」について検討を進めることとした。

決定に当たっては，庁内による検討（一次評価）及び建設業者へのアンケート調査（二次評価）により検討を進めた。一次評価においては，「総合評価落札方式」を導入する上で，導入メリットと導入に係る事務負担を比較し，検討を重ねた結果，「価格競争方式」を採用することとした。二次評価においては，価格のみではなく，実績や地域条件を考慮した方式を望む回答が多かったが，施工実績に大きく差がない結果となった。

以上より，アンケート調査の結果からは入札者の施工実績に大きな差がないため，「総合評価落札方式」を採用した場合に点数に差が出にくいこと，また町の規模及び人員不足等を考慮すると，「総合評価落札方式」を導入した場合，運用する労力に対して導入効果が低いこと等から，最終的に「価格競争方式」を採用することとした。現在，入札を終え，施工中である。

4. おわりに

多様な入札契約方式は，工事の性格や本町の実情等に応じ適切に選択・組み合わせを行うことが必要であり，本町のような体制構築が困難な小規模自治体においては，国土交通省が実施する入札契約改善推進事業の活用は，地方公共団体が抱える入札契約方式の課題解決に有効な手段である。

本町においては，今後も多様な入札契約方式の導入について必要な検討を重ねていく。

完成イメージ